

研究機関名：東北大学

受付番号：	2010-121
研究課題名	皮膚癌における Keap1-Nrf2 遺伝子変異の検索
研究期間	西暦 2010 年 6 月（倫理委員会承認後）～2015 年 5 月
対象材料	<input checked="" type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 皮膚） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（）
上記材料の採取期間	西暦 2003 年 月～2010 年 月
意義、目的	<p>Nrf2 及び Keap1 は発癌の防御及び抗癌剤の耐性獲得に関わっている遺伝子である。近年、肺癌で Nrf2 及び Keap1 遺伝子に変異があることが報告された。Keap1 に変異があると Nrf2 が常時活性化され、放射線や抗癌剤が効きにくくなると考えられる。実際に Nrf2 が多く発現している症例では治療の効果がなく予後が悪い事も示されている。その後も膀胱癌、頭頸部癌などで 10-20%程度に変異がみられることが報告され、様々な癌種にわたってこの変異が見られる可能性が示唆されている。</p> <p>そこで、今回皮膚癌症例の摘出標本よりゲノム DNA を抽出し、Keap1 及び Nrf2 遺伝子の変異を調べることにより、遺伝子変異の有無、遺伝子変異の有無と放射線や抗癌剤による治療の効果との関係、遺伝子変異の有無と予後との関係を明らかにしたい。Nrf2 及び Keap1 の変異の有無で放射線や抗癌剤による治療の効果を事前に予測できるようになれば皮膚癌の治療上大変有益であるのみならず、今後 Nrf2 をターゲットとした分子標的薬が有用であるかについての重要な情報をもたらすと考える。</p>
方法	<p>(対象疾患) 皮膚癌(悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌、汗腺癌、バジレット癌、メルケル細胞癌、リンパ腫、血管肉腫)で当科にて手術を行った症例</p> <p>(試料の種類、量、採取方法)病理組織検索時に使用したパラフィン包埋組織を使用する。</p> <p>(解析する遺伝子)Keap1 および Nrf2</p> <p>(解析方法)試料よりゲノム DNA を抽出し、エクソンの塩基配列をオートシーケンサーにより決定し変異を同定する。</p>
問い合わせ等の窓口	浅野 雅之 東北大学病院・皮膚科 (電話)022-7272-7271 (FAX)022-727-7361